



ごあいさつ

伊具高校同窓会会長 湯村 勇

新年を迎えたと思っていいたら、もう2月下旬となります。「光陰矢の如し」の感を強くしております。

さて、伊具高校同窓会員の皆さま、遅ればせながら、新年おめでとうございませう。今年もよろしくお願いを申し上げます。日ごろ、同窓会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

かつて、新型コロナウイルスが蔓延していた頃、皆さま方との交流を避けなければならず、何かと不便な日々を過ごしたものでした。コロナウィルスは、今は流行が下火になり、以前とは反対に情報交換を積極的に行うようになりました。

お陰様で、本同窓会を始め、各支部の会合や別の話し合いの中でも大きい問題点や課題点はございません。

第71号
令和8年2月28日

発行所

宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL 0224-72-2020
URL <http://www.igukou.com>
発行責任者 鈴木悦子

印刷所

佐藤印刷株式会社



順調に進んでいると言うことができます。

今年度の同窓会総会は昨年8月3日、丸森町のあぶくま荘で開催しました。保科郷雄丸森町長、黒須貫角田市長など数十人が参加され、盛大に開かれました。議題である事業計画、予算、決算など全てご承認を賜りました。

その他、紙面を借りまして昨年実施されました校地内への桜木植樹について報告をいたします。一昨年護岸工事のため、校地内の桜木十八本が伐採されました。その後わが母校に再び桜木を植樹したいとの思いから、昨年11月27日植樹会を実施しました。桜は、宮城農業高等学校から譲って頂いた新品種・玉夢桜と、ソメイヨシノ・シダレザクラ・エドヒ



植樹会開会 (11/27)

ガンザクラの四本となりました。桜は同窓会館（雁歌会館）南側庭に、同窓会員、生徒などの学校関係者立会いのもと植樹しました。今後の成長が楽しみとなっております。

また、各支部での活動の中で話題に上がったことを一つ共有いたします。最近の同窓会役員の年齢が高齢化しており、これからはもっと若い



植樹の様子 (11/27)

方に役員となつて頂き、伊具高校同窓会の運営・発展にご協力願えないだろうか。この問題は伊具高校だけに限らないことであり、検討に時間をいただくことになりました。

さて、年度は午年。何事にも馬力をかけて頑張りましょう。

結びになりますが伊具高校同窓会員の皆さま方、現伊具高生の皆さま方の益々のご健勝を、そして伊具高校のご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



「地域と共に歩み、 未来を拓く伊具高校」

宮城県伊具高等学校 校長 佐藤 真

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に対し、多大なるご理解と温かいご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

大正九年の創立以来、百五年の歴史を刻んできた伝統ある本校であります。令和七年度の締めくくりにあたり、本年度の歩みを振り返り、同窓生の皆様にご報告申し上げます。今年度も、生徒たちは「質実剛健」「穩健着実」の校訓を胸に、学習や部活動に邁進してまいりました。特に、本校の総合学科としての特色を活かした「農学」「機械」「情報」「福祉」の四系列での活動は、地域社会



入学式 (4/8)



桜の植樹会集合写真 (11/27)



植樹の様子 (11/27)

と深く結びつき、多くの成果を上げました。

農学系列では、伝統となっている大張沢尻の棚田での米作りにおいて、OBの皆様の熱心なご指導のもと、急斜面での作業に汗を流しました。地域遺産を守るという使命感を抱き、収穫の喜びを分かち合う事が出来ました。また、サンビア研修生との国際交流など、多

角的な視点での学びも展開しました。機械系列の生徒たちは、ものづくりを通じた実践的な学びに励みました。日々の実習に加え、資格取得への挑戦や、地元イベントにおけるドローン操作体験の提供など、地域貢献活動を継続実施しており、自らの技術が地域に役立つという経験を通して、将来「社会を支える人材」として歩むための大きな自信をつけました。

情報系列では、ICTを活用した課題解決学習や、各種資格取得に向けた学習に取り組むなどの成果を上げるとともに、今後ますます必要とされるデジタルスキルの活用等について学習を深めました。

福祉系列では、地元のこども園や地域の高齢者施設との交流・実習を通じて専門性を高め、相手に寄り添う心と確かな技能を身につけ、地域を支える即戦力としての資質を磨きました。

そして、その四系列が一体となり



護岸工事による学校南側の堤防とフェンス

横断的に協力して実施する「地域企業や公共団体とともに学ぶ、系列横断型の課題解決型学習（探究学習）」に今年度は取り組みました。具体的には、共通テーマを「キャンプ」と設定し、地域企業との協働学習として、農学系列は主に野菜類の提供、機械系列はバーベキューコンロやロケットストーブの製作、情報系列は竹炭作りとその関連製品製作、福祉系列はキャンプ飯のレシピ開発等を担当するなど、系列の枠を超えた総合的な探究活動を実施し関係各所から高評価を得ることが出来ました。また、本校は令和六年度から継続して文部科学省の「DXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）」の指定を受けており、他校との遠隔授業に新たに取り組むなど、校内にとどまらない多様な学びの実践が進んでいます。これらの取り組みは、生徒たちが「主体的に考え、行動する力」を育む大きな一助となっております。今後も農業ドローンのさらなる

活用や、各系列でのデジタル技術の導入を通じ、地域課題の解決に資する「生きる知恵」を持った人材の育成を「層強化」して参る所存です。

学習以外の面については、部活動において、硬式野球部が復活後初勝利を挙げ、さらに合同チームとして県大会出場権を獲得するなど、明るい話題が届きました。

なお、令和元年度の台風被害により伐採を余儀なくされた本校南側、新川沿いの桜の木については、生徒・教職員一同寂しい思いを抱いておりましたが、同窓会会長および会員の皆様が発案・主催された「桜の植樹会」により、校舎を彩る新たな希望の象徴が生まれ喜ばしく感じております。

現在、本校の生徒数は154名と少人数ではございますが、その分、教職員と生徒の絆は深く、一人ひとりに寄り添った教育を実践しております。本校にとって心強い応援団である同窓会会員の



大型ドローン本校田圃の農薬散布で活躍

皆様が築き上げてこられた伝統を大切にしながら、時代の変化に柔軟に対応し、地域に愛され、必要とされる学校づくりに「不易流行」の考えのもと全力を尽くしてまいりたいと考えております。

結びに、同窓会の皆様の益々のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、今年度の振り返りと感謝の言葉とさせていただきます。一年間、誠にありがとうございました。

令和7年度 総会報告

8月3日(日)午後5時30分 あぶくま荘

◎協議事項

- 一 令和6年度事業・会計報告ならびに承認について
- 二 令和7年度事業計画・予算案承認について
- 三 その他

本年度総会において、昨年度の事業及び会計決算報告、監査報告、本年度事業計画及び会計予算案が協議議題として審議され、各議案が原案どおり可決しました。また、隔年実施の役員改選については、再任が報告されました。その他の項目では、さくら基金会計報告があり、新たに校庭に桜の木を植樹する計画について報告がありました。

◎懇親会

本年度の総会・懇親会について、県議会議員八島様、丸森町長保科様、角田市黒須様を来賓としてお迎えし、総勢28名が参加しました。懇親会は校歌斉唱で始まり、終始和やかな雰囲気になりました。懐かしい思い出話に花が咲きました。現在の学校の様子を伝える写真のスライドショーなども行われ、世代を超えた絆の深さを改めて感じるひとときとなりました。



同窓会長の挨拶(総会)



集合写真

角田支部総会開催

(農業科26回卒業・角田支部)

目黒喜一

令和7年5月25日第11回角田支部総会をジュネス我妻で開催いたしました。鈴木支部長のあいさつに始まり、学校長佐藤真様 同窓会長湯村勇様 角田市副市長牛澤順様 丸森町長保科郷雄様の4名の方々にご祝辞をいただき、最初に参加者全員で伊具高等学校校歌斉唱し、その後の総会に提案した議案はすべて承認されました。事務局からは事務室長半澤寛之先生、事務局葛原妙子先生そして前同窓会長佐藤吉市様、大張支部長大槻孝雄様、副支部長中村次男様、館矢間支部長斎藤誠様と錚々たる方々にも遠路のところ出席を賜り大張支部からは沢尻地区の棚田体験など情報提供もあり、懇



親会を盛り上げて頂いたことは感謝の意を表するところであります。

今年も5月下旬に角田支部総会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。ぜひともご出席賜りますようお願いいたします。今後の支部活動については、きめ細かに役員会を開催し検討を重ねて参ります。私は角田支部に入会して9年目に入りますが先輩方には感謝しております。

【もうひとつの春】

昨年11月27日午後2時から伊具高雁歌会館前庭において桜の植樹会をおこないました。当日は天候に恵まれ学校長をはじめ諸先生、そして農学系列3年生4名による共同作業、また角田支部からも支援に合流し4本の桜の苗木を無事に植樹をすることができました。以前の18本の長寿の桜は令和6年5月に河川改修により伐採をいたしました。その代替木として、いつまでも後世に残すための植樹会です。苗木は新入生の歓迎の🌸として凛々と咲いてくれるものと期待に胸を弾ませております。桜の木が自然環境を豊かにする取り組みの一つとして、森林緑化推進活動とも言えるのではないのでしょうか。そして卒業生の新たな門出として花を飾ることでしょう。懐かしいと思うとき、ぜひ母校の庭園に足を運んでください。乱筆ですが一筆とさせていただきます。

丸森町・元気に・ガンバロー

(農業科19回卒業・小斎支部)

横山 博昭

現在小生、丸森町観光物産振興公社に籍を置いて「丸森町観光のシンボル」「阿武隈ライン舟下り」を運営し、丸森復興の一翼を担って同志とともに70歳を超えて活動しています。もしかしたら？いや、実は足手まといなのかもしれません。

私は母校を卒業して58年経ちます。昨年同級会があぶくま荘で開催され、参加しました。農業科同級生は63人でしたが、11人逝去されていることを聞きご冥福を祈り、互いに無礼講で近況など報告しながら予定時間を延長して旧交を温めたところです。その中で母校存続が話題になり、まづはどんな丸森町ならそれが叶うのかという会話の中で、「やつぱり若者が住みたいと感じる元気な丸森町だろうな。」というのがみんなの思いでした。

皆さんご承知のとおり丸森町は「令和元年東日本台風」により今まで経験したことがない大災害から6年余りの歳月が流れました。町はもとより国・県・全国のボランティアのご支援で災害前の生活を取り戻しております。復旧復興にご尽力いただいた多くの皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

また、1月31日には町民悲願の国

道349号の「山側への別ルート」も開通し、一部未改良ではありますが、福島、関東方面から観光にいらっしやるお客様にとつては非常に時間短縮快適走行になりました。更に「復興のシンボル・MIZBEステーション」が建設中です。この施設は国土交通省の強力なご支援で、丸森町が整備する施設で防災拠点・観光交流拠点の機能を持ち「阿武隈ライン舟下り・観光案内所・丸森名品売店」も移転する予定です。「町のゲートウェイ・元気まるもり」の旗頭となつて、丸森の魅力を内外に発信し、交流人口拡大を計り、町の活性化の起爆剤として期待されています。

丸森町のあたらしい観光拠点です、同窓生の皆さん、ご支援宜しくお願いたします。



MIZBEステーション完成イメージ

私のシイタケ栽培と大張地区での活動

(農業科22回卒業・大張支部)

佐藤 利美



私は現在73歳になります。私のこれまでの農業人生についてこちら

に記したいと思います。

伊具高校を卒業してから4年ほど会社に勤めましたが、農業を捨てることができず、その後就農しました。具体的には22歳の春にシイタケ栽培を始め、23歳の秋から出荷を始めました。その頃は両親が養蚕をやっていたので、春から秋までは水田と養蚕の仕事、秋から春まではシイタケ栽培と、一年中仕事が切れない計画でスタートしました。会社に勤務していた頃は、給料をいただいていたので良かったのですが、農業を始めから2年くらいは大変でした。その後はシイタケブームに乗って、順調に売り上げは伸びました。父母と私で頑張っており組んだ結果、養蚕の過去最高の収穫(しゅうけん)量は1.3トンでした。

その後中国からの輸入で絹糸値が下がり、養蚕をやめてシイタケ事業周年栽培に踏み切りました。平成11年には県の品評会で1位となり、更に農林水産大臣賞をいただきました。平成16年、平成21年も受賞し計3回

大臣賞をいただきました。宮城県では大臣賞を4回受賞された方がいるので、私は宮城県で2番目です。平成23年に原子力発電所の事故があり、その年は植菌を休みましたが、丸森町森林組合様、大河原振興事務所様や宮城県森林組合様のお陰で岩手県の久慈地区から櫟木（ほだぎ）を送っていただき、翌年24年から3000本ですが植菌をすることができました。お陰さまで51年間シイタケ栽培を続けています。丸森森林組合様とは45年ほどの付き合いであり、現在は大張地区の理事をさせていただいております。



シイタケ栽培をしながら、この大張地区では交通安全協会での活動も長く続けています。初めに24歳の時に交通安全協会大張支部の三区の理事となりました。31歳の時は会計の任につき、45歳の時は支部長代行を1年務め、その後支部長となって現在28年目となります。もちろん大張地区の皆さまの支えがあったからだと思います。お陰様で令和2年には全日本交通安全協会より交通安全賞章緑十字銀章を受賞することができました。その時は東京文京区のシビックシティホールにおいて家内と二人で表彰を受けてまいりました。その他の役割として、丸森町の交通安全連絡協議会の会長、角田地区交

伊具高野球部より

本校野球部では、昨年度同窓会より多大なるご支援があって少人数でも工夫して活動しています。今年度は本校が所属する合同チーム(伊具・名取・仙台工業)が春季宮城県高等学校野球 南部地区大会において、白石工業高校に5-4で勝利、仙台西高校に9-6で逆転勝利し、見事、県大会出場が決定しました。本校からは7名の生徒(マネージャー含む)が参加しました。県大会では、残念ながら築館高校に1回戦敗退でしたが、その輝かしい軌跡に、感動しました。



チームのために、確実に塁へ



試合終了後・監督からの話



この瞬間が、きっと思い出になる

交通安全協会の副会長をさせていただいています。現在は水田3.5ヘクタール、シイタケ2000本、杉の花粉採取の3本立てで、皆さまのお世話になりながら1年間を過ごしております。

機械系列

系列紹介

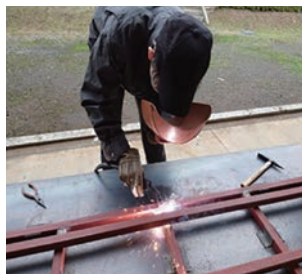
「ものづくりは人づくり」を標榜する機械系列として、「伊具高の力」プロジェクトを実施しています。このプロジェクトは、地域のために高校生に何ができるかを考え実践するものです。小中学校への出前授業や、角田市で行われているはやぶさ祭り、丸森町の大内みらい学校に参加しました。イベントにも積極的に参加し、

地域と生徒の関わりを大切にしていきます。例年継続して取り組んでいるふるさと納税返礼品の製作、ドローンの活用方法を模索し、企業と連携した研究開発、今年度世間を騒がせた防獣被害に対応した捕獲用箱罠の設置を校内敷地に設置しました。そして、外部講師を招聘した、溶接作業でのBBQコンロ製作、旋盤作業でのコマ製作、また、5S、QC講習会を実施しました。また、本系列では、情報教育にも力を入れています。産業用ロボット特別教育、無人航空機従事者試験3級（ドローン検定）試験の挑戦、



実習ではモナカエデュケーションを活用し、Arduino、Java、Pythonなどのプログラミング実習を実施しています。これは、激しく変動する社会情勢に合わせた資格や実習内容であり、時代の変遷に対応し、生徒や地域の実態、社会の実情を踏まえ取り組んでいます。今年度はさらに産業用ロボットを導入し、社会の変化に対応できる学習環境の整備にも取り組んでいます。

本系列では3年間で、ものづくりの基礎・基本を習得し、「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」といった社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを切り拓いていきます。伊具高校での様々な学校行事、機械系列での学びから成長できたと実感できるでしょう。これまで以上に個と地域、企業、組織、社会との関わりは長くなります。在校生、卒業生



農学系列

が、ライフステージの各段階で活躍し続け、今後地元を支えていく人材になってくれることを願っています。

農学系列では、将来の日本農業の担い手となる人材の育成を目指して、日々の学習や実習を行っています。本年度は、農業クラブ活動や各種販売会など、イベントが充実した一年となりました。

春の苗販売では、2日間の集中開催で多くのお客様が足を運んでいただきました。次年度は開催方法を見直し取り組んでいきたいと思っています。夏にかけては角田市花壇コンクール審査員として審査会に参加や県庁での高校生魅力発表会に参加して本校の野菜を販売しました。秋にかけては数年前から続く、大張沢尻の棚田で米作りを体験させていただきました。本校OBの大槻さん指導の下、2年生の生徒4名が棚田での米作りに挑戦しました。田



植えから除草管理、そして稲刈りまで歴史ある棚田での米作り実習は生徒の成長の糧となりました。メディア等の取材も受け、学習活動のアピールにもなりました。

また、本校の野菜や草花などを丸森町役場や町内のこども園で販売会を実施したり、地元の物産市場「八雄館」の販路拡大も大きな進歩となりました。次年度はさらに地域の施設にアプローチして学習活動の幅を広げていきたいと思っています。

また農業クラブ活動では、県内の各種大会に積極的に参加し、家畜審査競技会(肉用牛の部)では団体最優秀賞を獲得、県プロジェクト発表会、意見発表会では奨励賞を獲得、さらに山梨県で開催された農業クラブ全国大会には農業鑑定競技会に学校代表で参加したりなど、生徒の活躍の場が見られた1年でした。次年度も今年度に負けず、積極的な農業クラブ各種大会への参加と上位入賞を目



指して活動して参ります。

次年度は地元高校としての農業活動をもっとアピールしていきたいと思っています。販売会や農業クラブ活動など生徒の活躍の場を広げ、農学系列の魅力を発信して参りますので、ご期待ください。

情報系列

情報系列では、ビジネスの諸活動の基礎・基本を身に付けた上で、地域社会で実際に役立つ専門的な知識や技術を学習し、即戦力として地域に貢献できる人材育成を目指しています。また、職業人として求められる協調性や社会性、コミュニケーション能力について育成に努めています。DXやAIなどの情報化社会の変革に対応し、必要な場面で必要な能力を発揮できる人材を目標として、日々授業に取り組んでおります。授業においては商業に関する各教科を学び、各種検定取得も目標としています。情報処理検定・簿記検定・ビジネス計算実務検定などがあり、検定合格に向けて日々学習に取り組んでおります。



す。3年次生の

課題学習においては、それらの教科を生かして地域連携事業に取り組みます。本年度は、3年間の集大成として地域貢献活動と学校PR活動を行いました。地域貢献活動は特定非営利活動法人あぶくまの里山を守る会と協同で町内の放置竹林整備活動を実施しました。さらに、竹害とまで言われている竹を資源として活用して地域に還元するために、商品開発を行い、文化祭や不動尊キャンプ場で販売をしました。2年次生は、丸森小学校の6年生にむけて、魅力を伝えるスライドの作り方について、レクチャーを行い、学習内容を活かすことができました。



更に、外部活動では齋理幻夜において幻夜新聞発行・総合司会としてイベントを盛り上げることができました。テレビによるPR活動は、津波警報が発令され中止となってしまいましたが、齋理屋敷で写真撮影をし、町のSNSによるPR活動に参加することができました。今後も、多くの活動を通して、地域産業を担う人材として、人間性豊かな職業人を育成するために、万全のサポートを行っていききたいと思っております。

福祉系列

福祉系列は専門教科「福祉」「家庭」の科目が充実しており、福祉・家政系への就職または進学を目指して、日々学習に取り組んでいます。今年度は1年次10名、2年次16名、3年次9名、合計35名の生徒が所属しています。

福祉系列を選択している生徒の多くは、将来介護職として働く上で必要な基礎知識・技術を修得することができ、「介護職員初任者研修」の取得を目指しています。今年度も2年間基礎を積み上げてきた3年次生が、夏季休業中に地域の介護施設「仙南ジェロントピア」で介護実習をさせていただきました。学校だけでは学ぶことができない入浴や排泄、食事介助の補助も体験させていただきました。生徒たちにとって大変有意義な時間となりました。

また、福祉系列は令和元年東日本台風の経験から、これまで継続して防災について学び、活動しています。今年度は10月に館矢間小学校の子どもたちに防災教室を実施しました。防災テントや段



ボールベッド

の組み立てを
実演する活動
を行いました。

また、昨年度は紙芝居の読み聞かせを行いました。子どもたちが

子どもたちが身体を動かしながら活動できる方法を考えた結果、地域の小学校で防災〇×クイズを新たに行いました。小学生向けの〇×クイズになるよう自分たちで10問考え、楽しんで学んでもらえるように工夫を凝らした結果、積極的に防災クイズに参加している様子が見受けられました。この防災〇×クイズを通して、子どもたちにも防災について伝えていく大切さを学ぶことができました。

地域に学び、地域に還元することが生徒の学びをより深めることにつながると考えております。それぞれの目標に向かって、一生懸命取り組んでいる生徒たちです。同窓会の皆様には、今後とも様々な場面で御協力いただければ幸いです。



生徒の活躍

水泳部

第57回仙南水泳大会

男子50m 自由形 3年 坂本 龍生
第2位
男子100m バタフライ 3年 坂本 龍生
第2位

空手道部

宮城県高等学校新人大会

女子個人組手 -66kg級 2年 永沼 妃葵
第3位

農業クラブ

第二十七回仙南地域和牛共進会

優秀選手 2年 八巻 ほか
意見発表会 2年 八巻 ほか
奨励賞 2年 後藤 悠志

家畜審査競技会

肉用牛の部 団体 最優秀賞
肉用牛の部 個人 最優秀賞

最優秀賞 1年 高田 光希
優秀賞 2年 八巻 ほか
奨励賞 2年 八巻 ほか

プロジェクト発表会

分野Ⅰ類 農業生産・農業経営 3年 齋藤 俊輝
奨励賞 3年 齋藤 俊輝
分野Ⅲ類 資源活用・地域振興 3年 一條 いな
奨励賞 3年 一條 いな

写真部

宮城県高等学校文化連盟

仙南支部仙南高校写真展

銅賞 1年 齋藤 莉音
1年 駒野 大樹

吹奏楽部

宮城県吹奏楽コンクール予選

名取仙南地区大会 高等学校小編成の部 銅賞

第59回宮城県アンサンブルコンテスト予選仙南地区大会

一般の部 2年 菅原 竜汰
銀賞

情報系列

国道349号構造物名称決定委員会

感謝状 2年 情報系列

書道部

第50回ふれあい書道展

特選 3年 齋藤 心菜
敢闘賞 3年 高田 凛々花
奨励賞 3年 坂本 龍生
3年 佐藤 向菜多
3年 尾崎 悠衣

第74回宮城県高等学校書道展覧会

金賞 3年 齋藤 心菜
入選 3年 坂本 龍生
3年 佐藤 向菜多
3年 齋藤 粹唯
3年 尾崎 悠衣
3年 高田 凛々花

バレーボール部

宮城県高体連仙南支部バレーボール

功労賞 3年 佐藤 颯太

バスケットボール部

宮城県高体連仙南支部バスケットボール

功績賞 3年 目黒 尚輝

編集後記

冒頭の同窓会長のご挨拶、校長先生のご挨拶にもありましたが、今年度は同窓会館前庭に、新しく桜の木を植樹しました。植樹した4本の桜のうち、宮城農業高校から特別な“玉夢桜”を頂くにあたり、その活動を知るため植樹活動に取り組んでいる科学部を訪れました。科学部では高温障害で弱ったサクラの木の成長を促進するため、今年度、桜色活力剤を開発するなど様々な活動に取り組んでいました。部員の皆さんは明るく研究熱心で、たくさんの元気をもらいました。

本校での植樹会には多くの同窓生の皆さまが参加され、生徒と一緒に植樹を楽しみました。伊具高校の発展とともに、この4本の桜の成長を今後も暖かく見守っていただければと思います。

最後に、本会報の原稿依頼につきまして、ご快諾・ご寄稿いただきました会員の皆さまに、厚く御礼申し上げます。また、同窓会員の皆さまの今後のますますのご健勝をお祈りし、編集後記といたします。

【同窓会事務局】
鈴木 悦子
葛原 妙子
鷲尾 静香



6月〈体育祭〉障害物競争に苦戦しました！



8月〈総合防災訓練〉ボランティアとして参加

令和7年度 学校行事より



10月〈伊具高祭〉庄巻の書道部のパフォーマンス！



12月〈芸術鑑賞会〉吹奏楽部も演奏しました